

平成22年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

- 1 日時 平成23年3月16日(水)午前10時～
- 2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)
- 3 出席者 (敬称略)
 - (委員) 曾根眞由美、三井久美子、椎名慎太郎、谷口一夫、齊藤洋子、
廣瀬はるみ 6名
 - (事務局) 榊原館長、平賀次長、保坂学芸課長、学芸課員1名、総務課員2名
 - (教育庁) 学術文化財課員1名
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議事
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 会議に付した事案の件名
 - (1) 平成22年度考古博物館経過事業について
 - (2) 平成23年度考古博物館予定事業について
 - (3) その他

6 議事の概要

○東日本大震災の影響について

(事務局)

東日本大震災に伴う計画停電の影響を受け、停電時間に対応して開館している。
毎日、考古博物館のHPで広報しており、報道各社にも周知した。いずれにしても、可能な限り開館する方針である。

(事務局)

地震の影響による土器の破損は、全部で14点。このうち重要文化財の1点は、わずかな破損であるが、文化庁に毀損届けを行う予定である。
他、無指定の土器で大破したものが3点、修復に時間がかかるので別の展示品に交換した。
また、収蔵庫で10点が大破したので、後日、時間をかけて修復する予定である。

○以下、平成22年度経過事業に関する質疑等

(委員)

イベントの「こうこはく de タッチ&トーク」は、参加者にとっても好評だったので、もっと日数を増やしたら如何か。

一方、特別展のテーマ(発掘された女性の系譜)は少し難解であるとの意見があった。

女性の立場から見ると、今までにないテーマであり、また、一つのテーマで歴史を俯瞰すると

いう点もかえって良かったように感じる。時代を区切ったテーマではない点がとても斬新だった。観覧者が伸びなかった点は、広報の方法さえ工夫すればいいのではないかと思う。

(委員)

今回の特別展は考古博物館でしかできないテーマだった。まさに世に問うようなテーマだったと思う。

(委員)

改めて、このように盛りだくさんの事業、イベントを考古博物館が行っていたことに驚かされる。知っていれば行きたいと思う人が多いと思う。

例え大きなPRができなくても、協力していただけそうな団体にピンポイントで協賛を得たらどうだろうか。非営利団体に協力を得るなど、必ずしもお金をかけないPRの仕方があるはずである。

また、歴史や考古学が好きな方以外にも、ブームに敏感な子どもたちにももっと利用してもらえるよう、一層の工夫を行うべきである。

(委員)

資料の利用者統計に、企画展や主催事業も加えたらどうだろうか。

(事務局)

次回から、観覧者以外にも各種イベント等の参加者も加えた総利用者数を記載した資料を用意する。

(委員)

教育課程の利用を促進するには、学校との連携の工夫が大事である。新たな学校利用の方法を発掘すべきである。

例えば、湯之奥金山博物館では、峡南高校とアクセサリ作りで連携し、生徒に指導者になってもらう取組みを行っている。県立博物館は園芸高校と連携し、博物館裏の畑を活用している。

(委員)

インターンシップについて、早速4月から、笛南中などの考古博物館周辺の学校にアナウンスすべきである。

(事務局)

通常、毎年4月に各学校にチラシの配布などの広報を行っている。特に甲府市内は、職員が学校に直接出向いて広報しているところ

(委員)

教員へのアナウンスが特に重要である。「わたしたちの研究室」への応募などは、考古博物館から学校現場に戻った教員の働きかけの効果が顕著である。

(委員)

「わたしたちの研究室」は、教員の活動の効果も大きいですが、学校として一丸となった取り組みも評価したい。

ところで、銚子塚古墳等の古墳の見学者も利用者統計にカウントできないだろうか。せっかく素晴らしい古墳という資源があるのに、非常にもったいない。

例えば、古墳の上にドングリを用意して、それを持って来館した方をカウントするなどの方法は如何か。

(委員)

学校見学においても、古墳も見学コースとして組み込まれている。

(事務局)

利用者統計にカウントしているのは、原則として名簿がある場合であり、イベント等も参加者がある程度推計できる場合としている。古墳の見学者の把握については、技術的にかなり難しいのではないかと考える。

(委員)

曾根丘陵公園の利用者も利用者統計資料の欄外に記載してみたらどうか。

(事務局)

公園との連携イベントの場合は、必ず考古博物館にも入館していただくような仕掛けを作っている。

(委員)

オープン展示という考え方もある。つまり、公園利用者≒考古博物館利用者という捉え方である。もっと数字をかき集めることができればいいのだが。

○平成23年度の予定事業について

(事務局)

第29回特別展「縄文土器名宝点」については、来年度から月曜日を休館とする方針である。これは展示品の養生のため休館日を設ける必要があることと、臨時開館日とする月曜日の入館者が毎年極めて少ないことも理由である。

また、開催時期は9月〜とし、学校利用を増やしたいと考えている。

なお、東北地方の展示予定品については、震災の影響のため、借用は流動的な状況である。

好評だった「こうこはく de タッチ&トーク」は実施しない予定であるが、「考古博物館の日」などのイベントの中で、収蔵品に触れる機会を確保していく方針である。

(委員)

子ども向けイベントの参加者には、「参加賞」を出してあげたらどうか。

子どもたちは、こうしたちょっとしたことでも励みになるものである。参加賞に名前を入れてあげたり、励ましの言葉を入れてあげたり。

せっかく子どもたちが集まる機会を活かして、確実にリピーターづくりをしたらどうか。

(委員)

イベント毎でもいいし、年間出席の多い子どもを表彰したらどうか。

(事務局)

現在、「チャレンジ博物館」の参加者には、缶バッジを参加賞としてあげているところ。

(委員)

今後も、色々と工夫してほしい。